

〔鎌倉大草紙〕享德四年閏四月略中 芳賀伊賀守紀清兩黨の兵を引率して、宇都宮總領彌三郎明綱は、小山時政が甥なれば、是を頼、宇都宮の家を絶さじとて、成氏へ降参いたさせけり、

〔書言字考節用集十〕鎮西九黨武、大友、島津、菊池、原田、松浦、月、武、大友、島津、菊池、原田、松浦、秋、

〔武家職號〕鎮西九黨

大友、秋月、惟任、惟住、戸次、山澄、菊池、原田、松浦、

〔太平記劔卷略〕頼義略○中 終ニ軍ニ討勝、貞任ヲバ頸ヲ取り、宗任ヲバ虜テ上洛ス、略○中 宗任ハ筑紫へ

被流タリケルガ、子孫繁昌シテ今ニアリ、松浦黨トハ是ナリ、

〔梅松論下〕三月武○建武三年略○中 一色禪門、仁木右馬助、兩大將として、九州の輩、松浦黨を先として、

肥後の菊池へ發向す、

〔鹽尻三十三〕一僧に姓を蒙らしめて呼しは柿本紀僧正眞濟なり

〔隨意錄三〕僧素不可稱姓氏、而魏晉之僧、或稱父祖姓、或依師爲姓、其以釋爲姓者、始乎道安、是不通

之稱也、釋迦是梵言、以音譯爲釋迦字耳、釋字固非彼佛之姓氏也、若因爲其弟子、以爲之姓氏、則孔

門之徒、皆可以孔爲姓乎、

○按ズルニ、釋迦ハ姓ナリ、此書釋字、固非彼佛之姓氏也ト云ヘルハ誤ナリ、